

平成 29 年 6 月 15 日

<各位>

ナノキャリア株式会社  
代表取締役社長 中富 一郎  
(4571 東証マザーズ)  
問合せ先 取締役CFO兼社長室長 松山哲人  
電話番号 03-3241-0553

## iCONM 研究技術 (NC-6300 利用) のライセンス契約締結に関するお知らせ

当社が開発中であるNC-6300 (エピルビシンミセル) にスタウロスポリンをさらに内包させた2剤封入型の高分子ミセルDDSについて、これまで独自に権利保有を続けていた株式会社東京大学TLOとの間で、国内外の再実施権付独占的ライセンス契約を締結しました。

スタウロスポリンは、大村智先生 (2015年ノーベル生理学・医学賞受賞) が1976年に放線菌から単離した抗生物質です。公益財団法人・川崎市産業振興財団・ナノ医療イノベーションセンター (iCONM) の片岡・喜納ラボ\*は、スタウロスポリンを同時封入したエピルビシンミセルが、悪性中皮腫のがん細胞のみならず『がん幹細胞\*\*』をも効果的に殺傷し、マウスモデルにおいて休薬後9ヶ月以上も、がんの再発が見られなかったことを報告\*\*\*しています。

悪性中皮腫は、アスベストへの曝露が原因で胸腔または腹腔の内側を覆う膜にがん細胞が形成される病気です。化学療法や放射線療法などでの治療効果はなく、1年以内にほとんどの患者さんが亡くなってしまふ悪性度の高いがんです。有効な標準治療法が確立していないことから新しい治療薬の開発が待ち望まれています。

当社は既報の通り、希少癌である軟部肉腫を対象とした米国におけるNC-6300の第I/II相臨床試験の治験計画届出書をFDAに提出しており、患者登録に向けた準備を進めております。今後も国内外を問わず、単剤としてのNC-6300の一日でも早い承認取得に向けた活動を積極的に推進してまいります。同時に本件iCONM研究技術も含め、NC-6300技術の利用幅拡大と事業独占性確保による製品価値向上も並行して検討してまいります。

尚、本件による平成30年3月期の業績への影響はございませんが、新しい医薬品の可能性を追求する共同研究など積極的な活動を推進し、見通しに変化が生じた場合には速やかに開示いたします。

### 【株式会社東京大学 TLO】

東京大学で生まれた技術の産業界への窓口機能を担う組織  
代表：代表取締役社長 山本貴史  
所在地：東京都文京区本郷 7-3-1 産学連携プラザ3階  
設立：1998年8月3日

以上

\*片岡・喜納ラボ：iCONM センター長および東京大学政策ビジョン研究センター特任教授でもある片岡一則先生がラボ長を、そして東京大学客員研究員でもある喜納宏昭先生が副ラボ長を務める研究室であり、治療抵抗性がんの標的治療を可能にする高分子ミセル DDS と、それを利用した低侵襲治療システムの研究開発が進められています。

\*\*がん幹細胞：がん細胞の元になる細胞で、がん組織に数%のみ存在する細胞です。従来の化学療法および放射線療法に抵抗性を示すため、既存の抗がん剤治療では癌細胞が死滅し癌が治癒したように見えても、残存する少数のがん幹細胞により、がんの再発や転移が生じると考えられています。

\*\*\* <ご参考> がん幹細胞を狙い撃ちするナノテク抗がん剤の開発に成功

～アスベスト被爆が原因となる難治がん (悪性中皮腫) に対する奏功を確認～

[http://www.t.u-tokyo.ac.jp/shared/press/data/setnws\\_20160422131152736275900876\\_581071.pdf](http://www.t.u-tokyo.ac.jp/shared/press/data/setnws_20160422131152736275900876_581071.pdf)